

9月28日に実施しました全国学力・学習状況調査の結果について分析をして今後の指導方法について検討をしましたのでお知らせをいたします。なお、全国平均・県平均等については、まだ公表されておりませんので比較はしていません。

全国学力・学習状況調査 正答率

(〔A：主として知識〕〔B：主として活用〕)

	国語A	国語B	算数A	算数B
平均正答率(%)	80.6	50.1	83.3	50.0

国語

主な課題	要因
<p>主語と述語の照応ができていないために文章の意味が捉えられていないようです。また、語彙が不足しているために文章の理解が曖昧なままになっているところもあります。</p> <p>何を問われているのかがきちんと分かっていないため、答え方もずれてしまっているところがあります。</p> <p>目的や意図に応じた文章の書き方ができていないところがあります。</p>	<p>助詞の理解が不十分なために、主語・述語の関係の理解があやふやになっているようです。</p> <p>本や新聞など、初めての文章に触れる経験が少なく、読書量の不足が感じられます。</p> <p>目的を持ち、必要な事柄を整理して「書く」という経験が不足していることが考えられます。</p>
<課題解決に向けた国語科における具体的実践>	
<p>教科書以外の読み物や新聞記事などを読む機会を増やし、全員で感想を交流し合うような時間をしっかりと持つようにしていきたいと思います。</p> <p>物語文や説明文においては、主語や述語を対応させながら読み取りを進め、作文指導においては、推敲を重ねる中で主語や述語の照応や助詞の使い方間違いに気づかせるようにしていきます。</p> <p>国語以外の学習においても具体的なめあてを持って書くという活動を重視し、指導をしていきたいと思います。</p>	

算数

主な課題	要因
<p>問題文から必要な情報を読み取ることができず、既習事項をどのように活用するのかわかっていないようです。</p> <p>記述式の正答率が低く、問題の意味を理解し、筋道立てて考え、解決方法や判断理由を自分なりの方法で表現するという力が十分ではないようです。</p> <p>割合の意味や図形の基本的概念の理解が十分ではない子も多く見られます。</p>	<p>問題場面を理解することができず、何を問われているのかが漠然としていることが考えられます。</p> <p>繰り返し練習した問題には対応できるが、応用的な問題に対しては見通しが持ちにくい傾向があります。</p> <p>割合に関しては、生活上割合を使う経験と結びつけることがないために理解が難しいことが考えられます。</p>
<課題解決に向けた算数科における具体的実践>	
<p>授業の中で、具体物を使って思考することや、図や表を使って思考して、説明をする学習を大切にして、思考力を養うようにしていきたいと思います。</p> <p>自力解決の時間を十分に確保し、自分の考えをしっかりと持てるようにし、児童相互の意見交流の場を設け、自分の考えを分かりやすく表現できるようにしていきたいと思います。</p> <p>問題から必要な情報をまとめる練習を積み重ね、与えられた情報を正しく理解できるようにしたいと思います。</p>	

学力向上へ向けた全校的な取組（課題解決に向けた具体的実践）

日頃から自分の考えを自分の言葉で書いてまとめる学習活動をしっかりと設けるとともに、筋道立てて考えたり書いたりしていけるよう学年に応じた指導の工夫をしていきたいと思います。

学習活動全体において、めあてを明確にした言語活動を行い、より具体的な力を養えるよう指導していきたいと思います。また1～4年生の帯時間の一層の充実を図るようにしていきます。

算数において具体物で考える、図を使って考えるなどして、自分の考えをまとめて、筋道を立てて説明する学習を積み重ね、個別指導にも力を入れたいと思います。

日々の授業で培った力を生かす場として、5・6年生の言語・数理運用科の授業を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図ってきたいと思います。